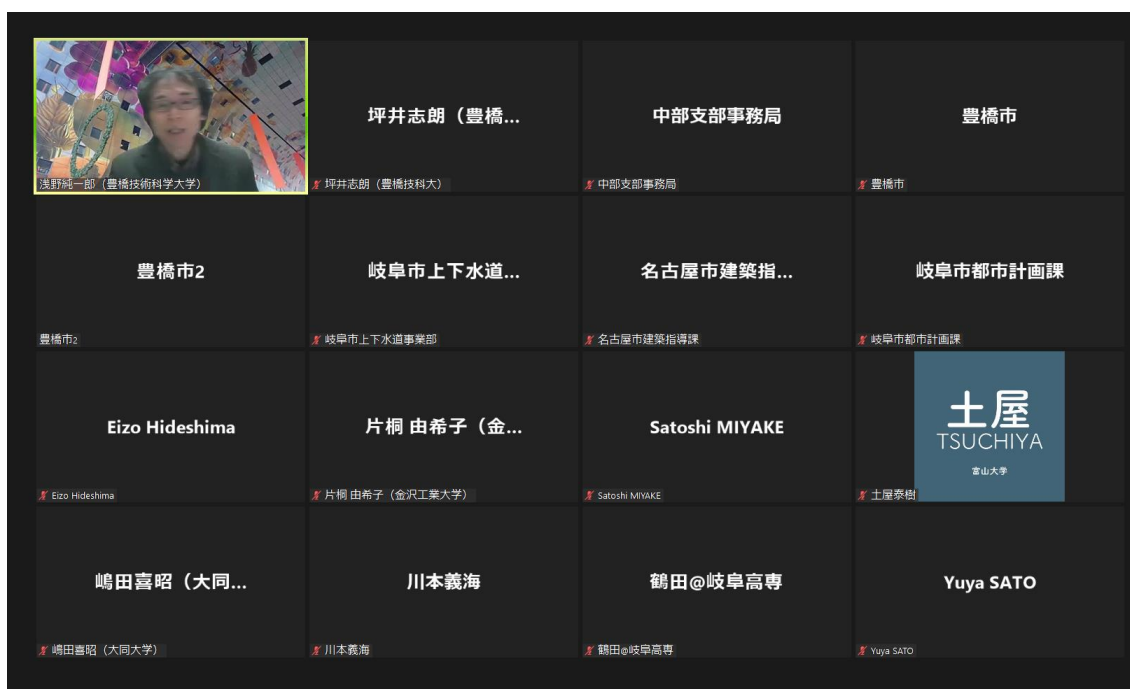


都市計画学会中部支部 能登半島地震対応コアメンバー会議 勉強会

日時：2024年4月4日 18:00~19:50

会場：オンライン

参加者：16名



はじめに、浅野純一郎支部長（豊橋技術科学大学）より、本勉強会の趣旨及び内容について説明があり、豊橋市から被災宅地危険度判定について、名古屋市から被災建築物応急危険度判定について、岐阜市から漏水調査や修繕工事についてご報告いただいた。

豊橋市（建築指導課伊藤氏）からは、液状化被害が大きかった内灘町の状況や被災宅地危険度判定の業務内容、迅速な対応のための事前準備やハザードマップの重要性などについて報告があった。質疑応答では、当日のスケジュールやデジタル機器の活用についての質問があった。

名古屋市（建築指導課小林氏）からは、宿舎から郊外にある穴水町へのアクセスの難しさや被災建築物応急調査の内容、今後行われる被災宅地危険度評価への連携、農村部での調査は一つの敷地に建物が多いことや敷地間の距離が離れていることから時間を要したこと、谷あいや造成地等で危険宅地（赤判定）となるが多かったこと等が報告された。質疑応答では、国・県・自衛隊などとの連携の仕方、穴水町内での調査の優先順位などについての質問があった。

岐阜市（上下水道事業部奥谷氏・高井氏）からは、水道管路の音聴棒や漏水探知機を用いた漏水調査の方法、工事業者と連携した修繕工事、給水車を用いた漏水エリアの特定、

配管図に記入されている仕切弁と実際の仕切弁の位置がずれており、作業がスムーズにいかないことがあったこと等が報告された。質疑応答では、重機（給水車やユンボ）の持ち込み状況やデータが合っていない時の対応方法等について質問があった。

（記録：坪井志朗）